

魚種（海域）：コマイ（根室海峡海域）

担当水試：釧路水産試験場

### 要約表

評価年の基準 (2014年度)	資源評価方法	2014年度の 資源状態	2014～2015年度 の資源動向
2014年4月1日 ～2015年3月31日	漁獲量	低水準	不明

\*生態については、別紙資料「生態表」を参照のこと。

## 1. 漁業

### (1) 漁業の概要

北海道で水揚げされるコマイの多くは、根室海峡海域（根室振興局管内沿岸）において、小定置網、底建網、刺し網などの共同漁業権漁業で漁獲されている（表1、図1）。根室海峡海域におけるコマイの主な漁期と漁場は、産卵盛期である1月に漁獲が集中する野付半島周辺（別海町、標津町）及び5～7月と11～12月の漁獲が多い根室半島周辺（根室市）に大別される（図2）。

なお、平成25年度まで評価年の基準日及び年齢起算日は1月1日としていたが、産卵盛期が1月中旬～下旬であり、受精からふ化までは2か月以上かかる<sup>1)</sup>と考えられていることから、平成26年度から評価年の基準日及び年齢起算日を4月1日に変更した。

### (2) 現在取り組まれている資源管理方策

コマイのみを対象とした資源管理は行われていないが、共同漁業権漁業では各漁協の漁業権行使規則により操業期間、漁具の制限等が定められている。

## 2. 評価方法とデータ

根室海峡海域の漁獲量は、漁業生産高報告（1985～2013年度）および水試集計速報値（2014年度）を用い、根室振興局管内（根室市～羅臼町：一部太平洋側の漁獲量を含む）の沿岸漁業の値を集計した。また、野付半島周辺で1月に漁獲された標本の尾叉長を測定した。

## 3. 資源評価

### (1) 漁獲量および努力量の推移

1985～2014年度における根室海峡の漁獲量は1,979～21,765トンの範囲で大きく変動していた。2008年度には16,466トンまで増加したが、その後は減少が続き、2014年度は3,774トンとなった（表1、図1）。市町村別には、根室市では1,056～6,300トンであったが、別海町では131～14,660トンと大きく変動していた（表1）。

沿岸漁業では、各漁協の漁業権行使規則により網数等の上限が定められており、また、他魚種も漁獲対象としていることから、漁獲努力量の年変動は小さいと考えられる。

## (2) 現在(評価年)までの資源状態

根室管内における月別漁獲量の推移を見ると、5～6月、と11月および1月に漁獲のピークが見られる(図2)。この海域における産卵期の漁獲物は、未成熟魚である尾叉長200mm前後の0歳、初回産卵魚である尾叉長250～300mmの1歳、経産卵魚である尾叉長300～350mmの2歳以上で構成される<sup>2)</sup>(文献2ではそれぞれ1歳、2歳、3歳以上とされている)。漁獲量の最も多い1月の野付半島周辺における漁獲物標本の尾叉長組成を見ると、1歳魚と考えられるモードは1995～2007年度には290～300mm、2008～2011および2013年度は270mm、2014年度は270～280mmおよび300mmにあった(図3)。尾叉長組成が近年変化した要因は不明であるが、漁獲物は1歳魚が主体であったと考えられる。また、5～6月の漁獲物については、産卵時期および孵化時期から考えて、0歳魚とは考えにくいため、1歳魚が主体であったと推測される。これらのことから、根室管内における漁獲物は1歳が主体であり、資源は1歳の年級豊度を反映して大きく変動していると考えられる。

漁獲量の推移から資源状態を判断すると、1985～1996年までは2～3年間隔で加入の良い年が見られていたが、1997～2005年度にはそのような年は見られず、低い水準で推移した。その後、2006および2008～2010年度には1万トンを超える資源水準の高い年が続いたが、2011年度以降は1997～2005年度と同程度の低い水準となった(表1、図1)。2011年度以降の低水準は、1歳で加入してくる年級群の豊度が低くなったことによると考えられる。

## (3) 評価年の資源水準：低水準

根室海峡における沿岸漁業の漁獲量を資源状態を表す資料とした。1990～2009年度の20年間における平均値を100として、 $100 \pm 40$ の範囲を中水準とし、その上下を各々高水準、低水準とした。2014年度の資源水準指数は53となったため、低水準と判断した(図4)。

## (4) 今後の資源動向：不明

前述のように、当海域の資源は1歳で加入してくる年級の豊度によって変動していると考えられる。2015年度に加入する2014年級の豊度に関する情報はないため、資源動向は不明とした。

## 4. 文献

- 1) 志田修：コマイ．漁業生物図鑑 新北のさかなたち(水島敏博・鳥澤雅監修)．北海道新聞社、札幌．158-159(2003)
- 2) 陳二郎・桜井泰憲：コマイの年齢と成長．北水試研報42: 251-264(1993)

表1 根室海峡におけるコマイ漁獲量の推移.

(単位：トン)

年度 (4～3月)	根室市	別海町	標津町	羅臼町	合計
1985	2,875	5,759	4,805	342	13,780
1986	2,131	7,088	2,714	34	11,966
1987	1,343	2,345	183	30	3,901
1988	2,038	1,105	740	87	3,970
1989	1,657	10,009	1,343	104	13,113
1990	2,208	8,240	705	158	11,310
1991	5,445	14,660	1,390	270	21,765
1992	2,936	367	615	179	4,096
1993	1,056	916	658	239	2,870
1994	1,462	131	328	57	1,979
1995	4,233	5,301	750	194	10,478
1996	2,410	6,383	589	111	9,493
1997	1,749	339	298	80	2,466
1998	1,565	1,954	458	184	4,160
1999	1,625	1,642	412	140	3,818
2000	2,718	367	247	165	3,498
2001	2,302	1,736	139	148	4,325
2002	1,571	2,558	193	153	4,475
2003	1,606	3,425	1,232	155	6,418
2004	1,502	1,216	874	151	3,743
2005	1,678	532	189	85	2,484
2006	5,411	4,056	810	111	10,388
2007	2,283	1,997	1,326	326	5,931
2008	6,300	8,044	1,823	299	16,466
2009	4,660	7,794	932	167	13,553
2010	4,394	3,016	3,845	568	11,822
2011	4,094	362	1,839	216	6,510
2012	3,297	392	1,571	154	5,413
2013	2,388	231	429	324	3,371
2014	2,661	316	503	293	3,774

資料：漁業生産高報告（2014年1月～2015年3月）  
は水試集計速報値。集計範囲は根室市～羅臼町の  
沿岸漁業の合計値。一部太平洋側の漁獲を含む。

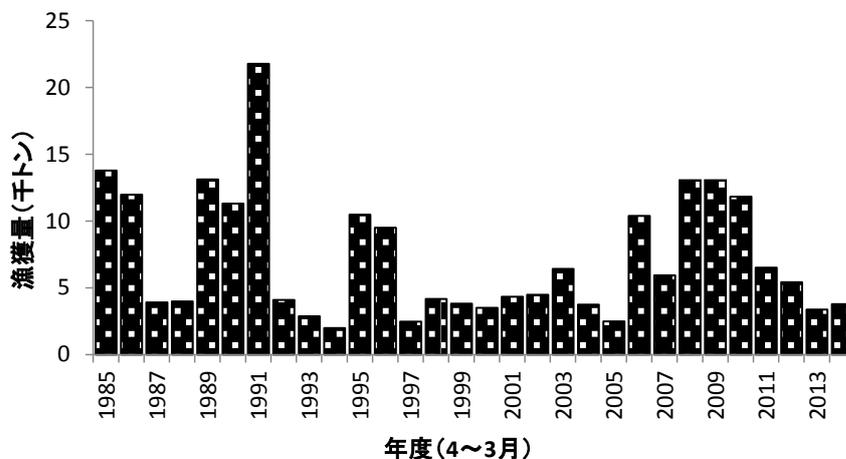


図1 根室海峡におけるコマイの漁獲量の推移.

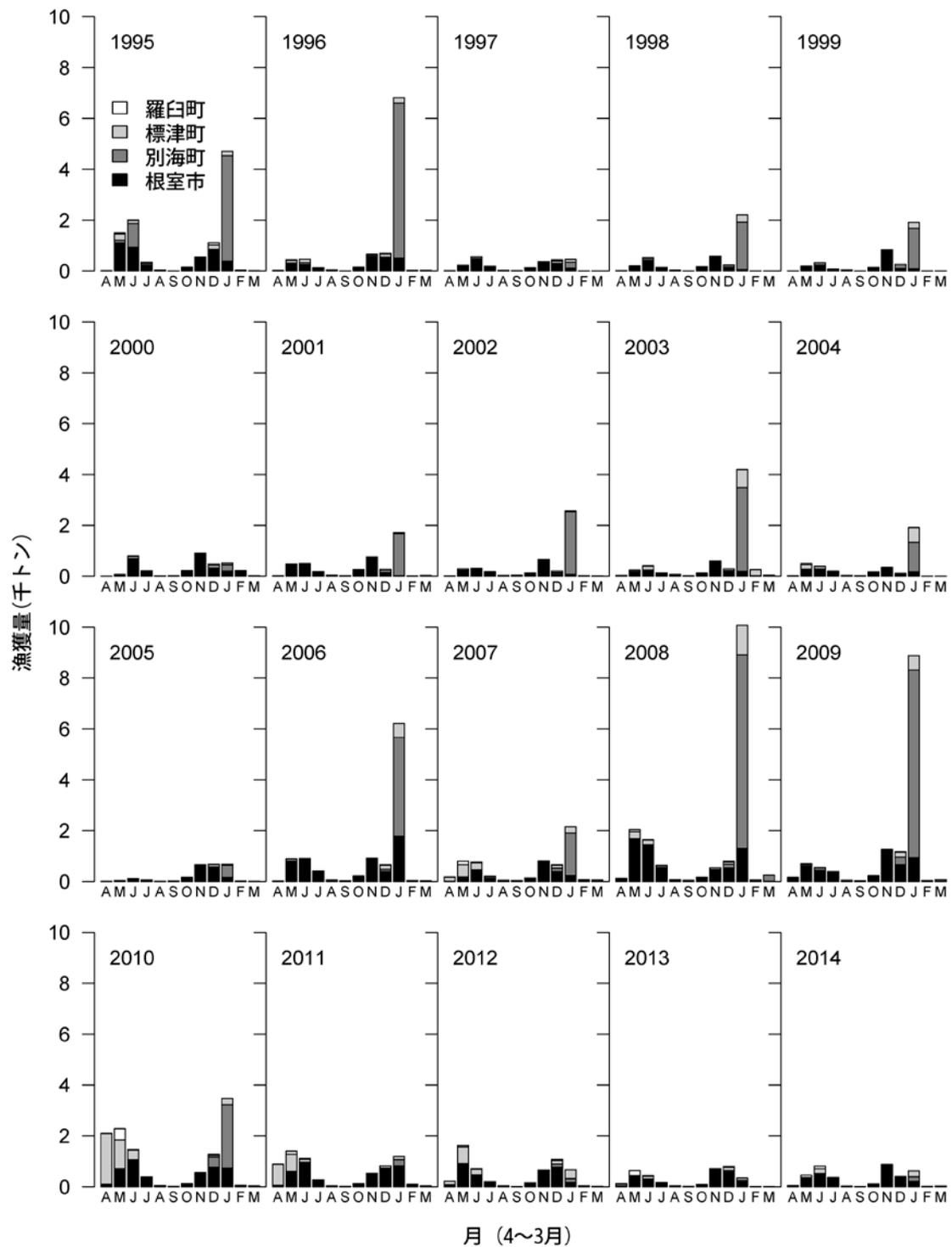


図2 根室海峡におけるコマイの月別漁獲量の推移。

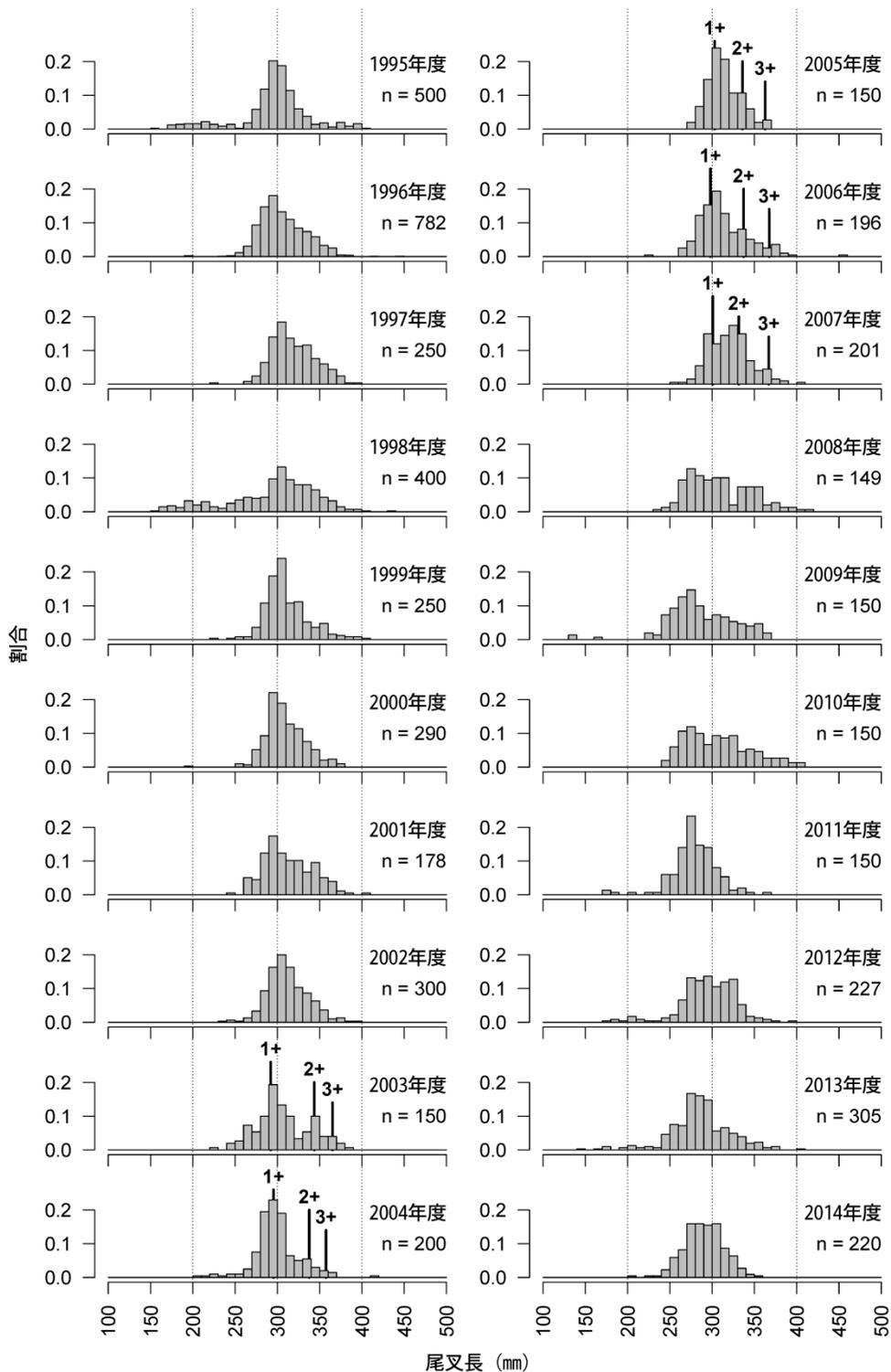


図3 根室海峡の野付半島周辺で1月に漁獲されたコマイの尾叉長組成 (n: 測定尾数).  
耳石による年齢査定データがある 2003~2007 年度については 1~3 歳魚の平均尾叉長を図示した.

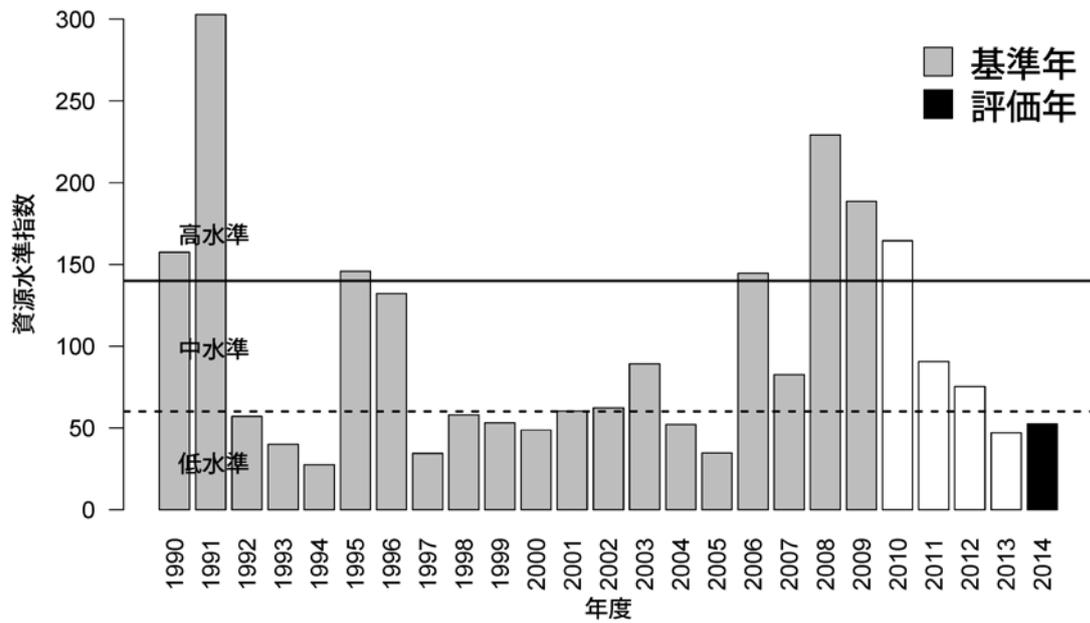


図4 根室海峡海域におけるコマイの資源水準.

資源状態を示す指標：根室振興局管内における沿岸漁業の漁獲量.

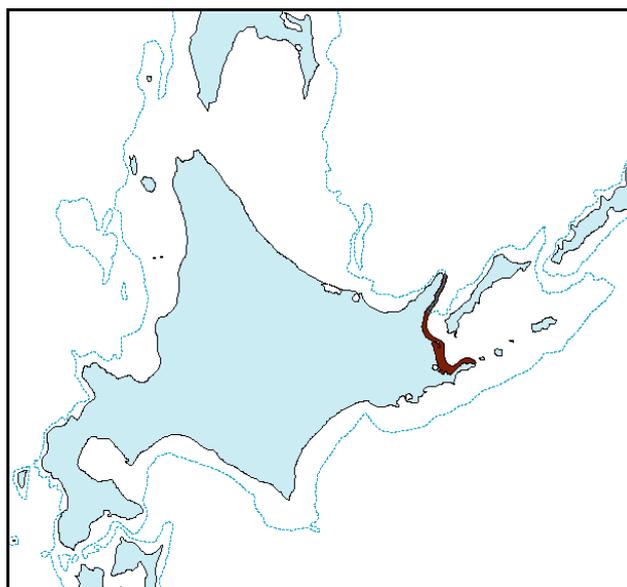
生態表 魚種名：コマイ 海域名：根室海峡海域

図 コマイ（根室海峡海域）の漁場図

## 1. 分布・回遊

北方四島周辺から根室海峡および道東太平洋にかけての水深 150m以浅の海域に多い。比較的地域性の強い種と考えられており、冬期の産卵期には沿岸域に接岸するほか、夏期にも沿岸域を回遊する。

## 2. 年齢・成長（加齢の基準日：1月1日）

(10～3月時点)

満年齢	1歳	2歳	3歳
被鱗体長(cm)	18	28	33
体重(g)	66	203	309

(体長は陳，桜井<sup>1)</sup>より，体重は1995年1月の漁獲物測定データより)

## 3. 成熟年齢・成熟体長

体長20～24cm，1歳で成熟する個体が一部みられるが，大部分は2歳で成熟する<sup>1)</sup>。

## 4. 産卵期・産卵場

- ・産卵期：1～2月（1月上中旬が盛期）である。
- ・産卵場：ごく沿岸部の結氷域付近で短期間に集中的に産卵する。根室海峡では野付半島周辺が大きな産卵場となっているが，道東太平洋海域では明らかではない。
- ・産卵生態：スケトウダラと異なり，低温に強く，1回の産卵で全ての卵を産出する。

## 5. その他

なし

## 6. 文献

- 1) 陳二郎，桜井泰憲：コマイの年齢と成長. 北水試研報. 42, 251-264(1993)